財団法人山形面埋蔵文化財センタ

発掘がたり、一般では、

平成 18 年度 山形県埋蔵文化財発掘調査報告会資料

平成 18 年 12 月 16・17 日 山形国際交流プラザ山形ビッグウイング

主催:財団法人山形県埋蔵文化財センター

共催:山形県教育委員会

後援:遊佐町教育委員会·東北芸術工科大学

発掘やまがた最前線

平成 18 年度 山形県埋蔵文化財発掘調査報告会

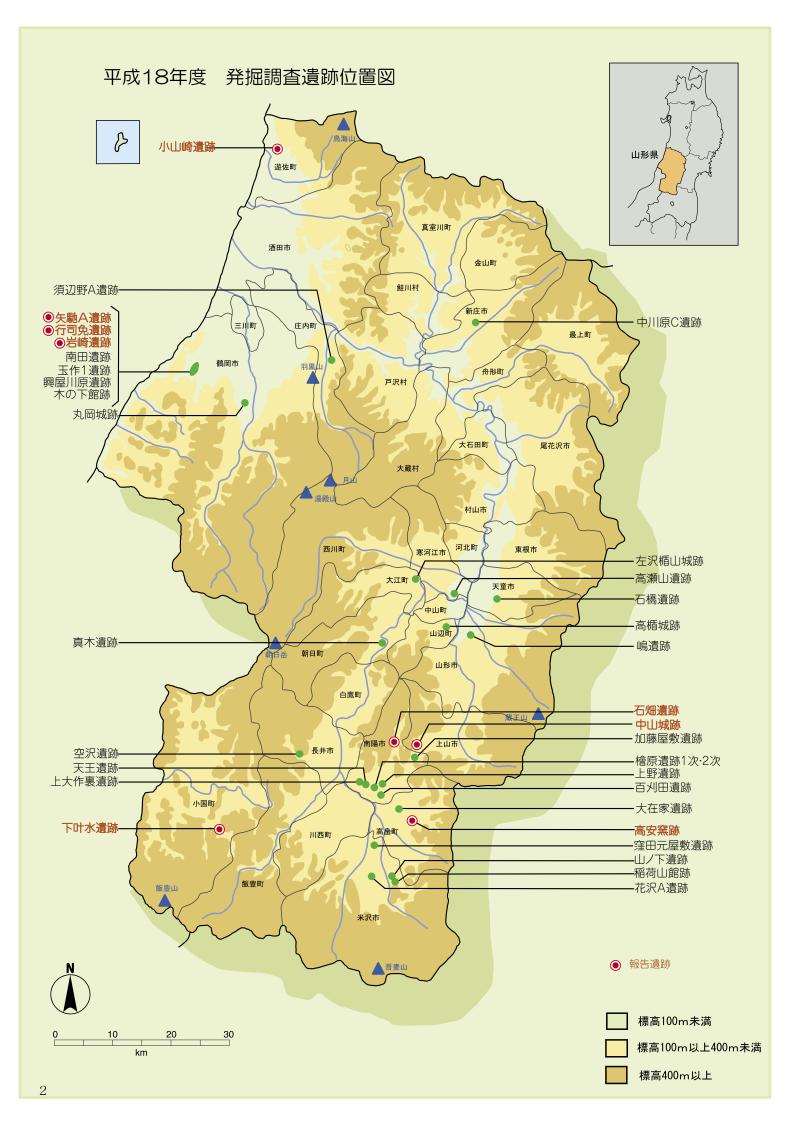
日程

受 付 9:30								
開	会	10:00						
調査報告								
1	中山	山城跡	$10:15 \sim 10:40$	目 次	September 1997			
2	? 行言	可免遺跡	$10:40 \sim 11:05$	山形の遺跡と日	日本の歴史	1		
3	岩崎	奇遺跡	$11:05 \sim 11:30$	発掘調査遺跡位	上置 図	2		
	厚	質疑	$11:30 \sim 11:40$	発掘調査遺跡-	一覧表	3		
	昼鱼	食休憩	$11:40 \sim 13:00$	中山城跡	第2次	4		
4		安窯跡	$13:00 \sim 13:25$	行司免遺跡	第3次	6		
_		東北芸術工科大学)		岩崎遺跡		8		
5		池A遺跡	$13:25 \sim 13:50$	高安窯跡		10		
6		十水遺跡	$13:50 \sim 14:15$	矢馳A遺跡	第3次	12		
_	•	木憩	$14:15 \sim 14:40$	下叶水遺跡		14		
7		田遺跡	$14:40 \sim 15:05$	石畑遺跡		16		
8	• .	山 崎遺跡 遊佐町教育委員会)	$15:05 \sim 15:30$	小山崎遺跡		18		
			15.00 15.40	上野遺跡	第2次	20		
日日		質疑	$15:30 \sim 15:40$	中川原C遺跡	第4次	21		
閉	会	15:40		神原遺跡	第1次	22		
				檜原遺跡	第2次	23		
◇岩崎遺跡の報告終了後に遺物展示会場				上大作裏遺跡		24		
において企画展の説明を行います。			を行います。	天王遺跡		25		
◇遺物展示コーナーは				加藤屋敷遺跡		26		
	·	土) 13:00~		稲荷山館跡	第2次	27		
	17日(日) 9:30~1		山ノ下遺跡		28		
			まで行います。	興屋川原遺跡	第3次	29		
◇縄文体験コーナーは、人数制限があり			人数制限があり	木ノ下館跡	第3次	30		
ま	す。以	下の時間で行い	います。	玉作1遺跡	第2次	31		
	16日(土) 13:00~	17:00	南田遺跡		32		
16:00 受付終了								
	17日(日) 9:30~1	15:00	企画展 発掘さ	どれた被災遺跡	33		
		1	4:30 受付終了					



年	時代	平成18年度発掘調査遺跡		県内の	主な遺跡		山形県の歴史	日本の歴史	世界の歴史
約8万年前	旧		上屋地	(飯豊町)	 富 山	(寒河江市)	山形県に人が住みつき、県内で	日本列島に人がすみつき	原人
ボルロング 十十月	旧石器時代		越中山	(銀邑市)	亩 山 お仲間林	(西川町)	産出する良質な頁岩で作られた	石器を使って狩猟などを	旧人
	時		1	(小国町)	金谷原	(寒河江市)	ナイフを使う	して生活する	新人
	代	真木遺跡(朝日町)	弓張平B	(西川町)	角二山	(大石田町)			
	草		八森	(酒田市)	月山沢	(西川町)		弓矢がつかわれだす	
	草創期			(高畠町)	大立洞穴	(高畠町)	隆起線文土器を使う人が日向洞	土器づくりがはじまる	
** + 0 000 ** **			火箱岩洞穴			/ EI # \ \ EI + \ \	穴などで生活を始める	AHI Javie Victoria	alla telli, alli, when a value we we
約10,000年前	早期		にひゃく寺 須刈田		ı いるかい 月ノ木B	(尾花沢市) (南陽市)	竪穴住居による小集落が形成さ れる	縄文海進が進む 漁撈活動が盛んになる	農耕牧畜が起こる
約6,000年前	 				-		漆を使って文様を描いた土器が	落葉広葉樹林が広がる	
	前期		庚申町 押 出		□ 小林A 吹 浦	(東根市) (遊佐町)	つくられる	磨石・石皿・凹石が多くなる	
約5,000年前	縄		· ·		-	(山形市)	計画的な大集落があらわれる	三内丸山遺跡が繁栄する	エーゲ文明始まる
	文中	中川原C遺跡(新庄市)	水木田西海渕	(最上町) (村山市)	□ 中地蔵 西 向	(鶴岡市)			
	n+	空沢遺跡(長井市) 石畑遺跡(南陽市)	西ノ前	(舟形町)	根際的場	(山辺町)		関東地方に大型貝塚があらわれる	楔形文字が使われる
	^時 期 代	上大作裏遺跡(南陽市)	中台4	(真室川町)		(山形市)			
		花沢A遺跡(米沢市)	小林B	(東根市)	中村A	(村山市)	竪穴住居に複式炉がつくられる		ピラミッドが作られる
	後	小山崎遺跡(遊佐町)	ЛПП	(村山市)	津 谷	(戸沢村)	# - #		
		石畑遺跡(南陽市)	砂子田	(天童市)	かっぱ	(最上町)	集落が減少する	配石遺構がさかんにつくられる	
	期	山ノ下遺跡(米沢市)	泥 部	(上山市)	鳥川4	(米沢市)	中国製青銅刀がもたらされる		殷王朝がおこる
約3,000年前	晩	加藤屋敷遺跡(南陽市)	宮の前	(村山市)	神矢田	(遊佐町)		亀ヶ岡文化が栄える	
₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩₩	期	石畑遺跡(南陽市)	作野	(村山市)	砂子田	(天童市)	de Maria Combination (Mariante)	九州で米づくりはじまる	ソクラテスが死ぬ
	773	下叶水遺跡(小国町)	北柳1	(山形市)	□蟹 沢	(東根市)	鳥海山が噴火する(前466年)		孔子生誕
約2,300年前	亦胜	百刈田遺跡(南陽市)	北柳1・2	(山形市)	生石2	(酒田市)	米づくりがはじまる	吉野ヶ里遺跡が繁栄する	アレクサンダー大王生誕
約1,700年前	弥 時 生 代	石畑遺跡(南陽市) 上大作裏遺跡(南陽市)	西高	(山形市)	□ □ 庚 壇	(南陽市)	機織がはじまる	邪馬台国が出現する(230年頃) 前方後円墳がつくられる	カエサル暗殺 ゲルマン民族大移動
ホリ1,7 UU 1 円リ		上八IF表起呀(荆陽川/	畑田		上 比丘尼平	(米沢市)			/ ルマン(水/八/夕里/
			廻り屋	(白鷹町)	比丘尼干 天神森古墳	(川西町)	県内最大の前方後円墳がつく	大和の土師器が全国にひろまる	
	古		宮町	(山形市)	稲荷森古墳	(南陽市)	られる	/E-+ 111 10 - /A 1- k3 L	D4-T-40 101-5-3
	墳	窪田元屋敷遺跡(米沢市) 興屋川原遺跡(鶴岡市)	板橋 2	(天童市)	寶領塚古墳		東北最大の円墳がつくられる	須恵器がつくられだす 稲荷山古墳出土の鉄剣(471年)	隋王朝がおこる
		玉作1遺跡(鶴岡市)	今 塚 馬洗場B	(山形市) (山形市)	菅沢古墳 大之越古墳	(山形市) (山形市)		聖徳太子が摂政となる(593年))) 1 // 25
	時	矢馳A遺跡(鶴岡市)	萩原	(山形市)	お花山古墳		小規模な古墳群がつくられる	十七条憲法を制定(604年)	マホメット生誕
	代	岩崎遺跡(鶴岡市)	西沼田	(天童市)	谷柏J	(山形市)	TO SELECTION OF THE SEL		
		南田遺跡(鶴岡市) 高瀬山遺跡(寒河江市)	矢馳A 畑田ム	(鶴岡市) (中山町)	服部·藤冶屋		鉄製農具がつかわれだす		
		嶋遺跡(山形市)	物見台 南 原		太夫小屋2・: 梅ノ木	(山形市)	大規模な集落があらわれる		唐王朝がおこる
			寝 鹿	(高畠町)	志戸田縄	(山形市)	八州大は木伯があられれる		占工物があこる
約1,300年前	飛時鳥代	高安窯跡(高畠町)	北目古墳	(高畠町)	羽山古墳	(高畠町)	出羽郡が建郡される(708年)	平城京に都をうつす(710年)	
	鳥代	问父杰奶(问田門)	安久津古墳		└ 長手古墳	(米沢市)	出羽柵が設けられる(709年)	本土まの土(1 開明 /550欠)	未占 打 書入 18活用
	奈 時 良 代		二色根古墳		牛森古墳	(米沢市)	出羽国が建国される(712年)	東大寺の大仏開眼(752年)	李白·杜甫らが活躍
約1,200年前	良代	大在家遺跡(高畠町)	西町田下	(山形市)	□ 木和田窯 □ 不動木	(米沢市) (河北町)	出羽柵が秋田村高清水岡に 移転する(733年)	長岡京に都をうつす(784年) 平安京に都をうつす(794年)	
			梅ノ木	(山形市)	服部·藤冶屋		1944) (100-7)	坂上田村麻呂が蝦夷を平定する	カール大帝戴冠
		加藤屋敷遺跡(南陽市) 天王遺跡(南陽市)	大浦B	(米沢市)	志戸田縄	(山形市)	大地震がおきる(850年)	続日本紀ができる(797年)	楊貴妃が活躍
		上大作裏遺跡(南陽市)	城輪柵		- 手蔵田	(酒田市)	鳥海山が噴火する(871年)	胆沢城をつくる(802年)	アラビアンナイト成立
		檜原遺跡(南陽市)	後 田 八 森	(酒田市) (酒田市)	山海窯 大 坪	(酒田市) (遊佐町)	最上郡が二分され、最上郡と 村山郡とになる(886年)	将門·純友の乱(935·939年)	高麗王朝がおこる
	_	百刈田遺跡(南陽市)	道伝		下長橋	(遊佐町)	11 11 12 12 13 14 15 15 15 15 15 15 15	藤原氏の全盛(1016年)	宋王朝がおこる
	平	上野遺跡(南陽市) 岩崎遺跡(鶴岡市)		敷(寒河江市)		(米沢市)			
	安	名啊這跡(鶴岡川) 興屋川原遺跡(鶴岡市)	三条		「堀端・址ノ上」				
	時	行司免遺跡(鶴岡市)		!(寒河江市) 『市·中山町)	中野目I 吉 原	(山形市) (山形市)			
	代	矢馳A遺跡(鶴岡市)	谷柏J	(山形市)	蔵増押切	(天童市)			
		南田遺跡(鶴岡市) 石橋遺跡(天童市)	小松原窯		向河原	(山形市)		前九年合戦はじまる(1051年)	十字軍の時代始まる
		高瀬山遺跡(寒河江市)	中 里 一ノ坪	(米沢市) (山形市)	- 四ツ塚 - 泉森窯	(河北町) (酒田市)			
		山ノ下遺跡(米沢市)	中地蔵	(山形市)	^{承林} 山 田	(鶴岡市)		後三年合戦はじまる(1083年)	
		須辺野A遺跡(庄内町)	的場		· 永源寺	(天童市)			
			今 塚	(山形市)	三本木窯	(山形市)		中尊寺建立(1105年)	
		中川原C遺跡(新庄市)	升 川	(遊佐町)	- 長 表	(山形市)			
	鎌		志戸田縄	(山形市)	七日台 - - 永源寺	(鶴岡市)		鎌倉に幕府をひらく(1192年)	マグナカルタ制定
約800年前	鎌倉時	稲荷山館跡(米沢市)				(天童市)			チンギスハーン征西
約800年前	鎌倉時代		執行坂窯	(鶴岡市) (遊佐町)				南北朝の動乱(1336年)	
		稲荷山館跡(米沢市) 檜原遺跡(南陽市)	執行坂窯 大 楯	(遊佐町)	連華寺	(鶴岡市)			ダンテが活躍
約800年前	安	稲荷山館跡(米沢市) 檜原遺跡(南陽市) 天王遺跡(南陽市) 木の下館跡(鶴岡市)	執行坂窯 大 楯 柳沢A					南北朝の動乱(1336年) 室町に幕府をひらく(1338年)	ダンテが活躍 明王朝がおこる
	安	稲荷山館跡(米沢市) 檜原遺跡(南陽市) 天王遺跡(南陽市) 木の下館跡(鶴岡市) 左沢楯山城跡(大江町)	執行坂窯 大 楯 柳沢A 小田島城 長岡山	(遊佐町) (鶴岡市) (東根市) (南陽市)	· 蓮華寺 高松Ⅱ 蔵増押切 安中坊	(鶴岡市) (寒河江市) (天童市) (西川町)			ダンテが活躍
約650年前		稲荷山館跡(米沢市) 檜原遺跡(南陽市) 天王遺跡(南陽市) 木の下館跡(鶴岡市)	執行坂窯 大 楯 柳沢A 小田島城 長岡山 藤島城	(遊佐町) (鶴岡市) (東根市) (南陽市) (鶴岡市)	選華寺 高松Ⅱ 蔵増押切 安中坊 館山北館	(鶴岡市) (寒河江市) (天童市) (西川町) (米沢市)	斯波兼頼が山形へ入部	室町に幕府をひらく(1338年)	ダンテが活躍 明王朝がおこる ルネサンス全盛
約650年前	室町時代	稲荷山館跡(米沢市) 檜原遺跡(南陽市) 天王遺跡(南陽市) 木の下館跡(鶴岡市) 左沢楯山城跡(大江町)	執行坂窯 大 楯 柳沢A 小田島城 長島城 山楯楯	(遊佐町) (鶴岡市) (東根市) (南陽市) (鶴岡市) (酒田市)	選華寺 高蔵増田切 一蔵増中坊 館山北館 白鳥館	(鶴岡市) (寒河江市) (天童市) (西川町) (米沢市) (村山市)	斯波兼頼が山形へ入部	室町に幕府をひらく(1338年) 種子鳥に鉄砲が伝わる(1543年)	ダンテが活躍 明王朝がおこる
約650年前	室町時代	稲荷山館跡(米沢市) 檜原遺跡(南陽市) 天王遺跡(南陽市) 木の下館跡(鶴岡市) 左沢楯山城跡(大江町)	執行坂窯 大 楯 柳沢A 小田島城 長島城 山楯楯 土生田	(遊佐町) (鶴岡市) (東根市) (南陽市) (鶴岡市) (酒田市) (村山市)	選華寺 高蔵増押切 家中中北 富山北館 白鳥館 上浅川C	(鶴岡市) (寒河江市) (天童市) (西川町) (米沢市) (村山市) (米沢市)		室町に幕府をひらく(1338年)	ダンテが活躍 明王朝がおこる ルネサンス全盛 マゼラン世界一周
約650年前	室町時代	稲荷山館跡(米沢市) 檜原遺跡(南陽市) 天王遺跡(南陽市) 木の下館跡(鶴岡市) 左沢楯山城跡(大江町) 高橋城跡(山辺町)	執行坂橋 林沢A 小田岡島山城 橋田城 山土生崎城 地土生崎城	(遊佐町) (鶴岡市) (東根市) (南陽市) (鶴岡市) (酒田市) (村山市) (酒田市)	選華寺 高蔵増田切 一蔵増中坊 館山北館 白鳥館	(鶴岡市) (寒河江市) (天童市) (西川町) (米沢市) (村山市) (米沢市) (米沢市)	東禅寺城が軍備を増強する	室町に幕府をひらく(1338年) 種子鳥に鉄砲が伝わる(1543年)	ダンテが活躍 明王朝がおこる ルネサンス全盛 マゼラン世界一周 がリレオが活躍
約650年前	安	稲荷山館跡(米沢市) 檜原遺跡(南陽市) 天王遺跡(南陽市) 木の下館跡(鶴岡市) 左沢楯山城跡(大江町)	執行坂窯 大 楯 柳沢A 小田島城 長島城 山楯楯 土生田	(遊佐町) (鶴岡市) (東根市) (南陽市) (鶴岡市) (酒田市) (村山市)	連華寺 □ 高蔵増切切	(鶴岡市) (寒河江市) (天童市) (西川町) (米沢市) (村山市) (米沢市)		室町に幕府をひらく(1338年) 種子島に鉄砲が伝わる(1543年) 織田信長安土城を築く(1576年)	ダンテが活躍 明王朝がおこる ルネサンス全盛 マゼラン世界一周
約650年前	室町時代 安土桃山	稲荷山館跡(米沢市) 檜原遺跡(南陽市) 天王遺跡(南陽市) 木の下館跡(鶴岡市) 左沢楯山城跡(大江町) 高橋城跡(山辺町)	執行 坂 株 一 本 で は か に か に か に か に か に か に か に か に か に か	(遊佐町) (鶴岡市) (東根市) (南陽市) (鶴岡市) (酒田市) (村山市) (酒田市) (大蔵村)	選幸寺 □ 高藤田 切切 安雄 中山北館 中山北館 日 上 光 下 宝川 上 光 下 完 川 上 来 下 元 平 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元	(鶴岡市) (寒河江市) (天童市) (西川町) (米沢市) (村山市) (米沢市) (米沢市) (鶴岡市) (米沢市) (寒河江市)	東禅寺城が軍備を増強する	室町に幕府をひらく(1338年) 種子島に鉄砲が伝わる(1543年) 織田信長安土城を築く(1576年) 豊臣秀吉の天下統一(1590年)	ダンテが活躍 明王朝がおこる ルネサンス全盛 マゼラン世界一周 がリレオが活躍
約650年前 約530年前	室町時代 安土桃山	福荷山館跡(米沢市) 檜原遺跡(南陽市) 天王遺跡(南陽市) 木の下館跡(鶴岡市) 左沢楯山城跡(大江町) 高橋城跡(山辺町) 丸岡城跡(鶴岡市) 中山城跡(上山市)	執行 採掘 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	(遊佐町) (鶴岡市) (東限市) (東陽市) (南陽市) (鶴岡市) (酒田市) (村西田市) (村西田市) (大西村) (鶴市) (新庄市) (山形市)	選事書車高蔵安館自上由上大宗元三兩表台	(鶴岡市) (寒河江市) (天童市) (西川町) (米沢市) (村山市) (米沢市) (巻沢市) (巻沢市) (寒河江市) (長井市)	東禅寺城が軍備を増強する	室町に幕府をひらく(1338年) 種子島に鉄砲が伝わる(1543年) 織田信長安土城を築く(1576年) 豊臣秀吉の天下統一(1590年) 関ヶ原の戦い(1600年)	ダンテが活躍 明王朝がおこる ルネサンス全盛 マゼラン世界一周 がルオが活躍 東インド会社設立 清王朝がおこる アメリカ独立
約650年前 約530年前	室町時代	福荷山館跡(米沢市) 檜原遺跡(南陽市) 天王遺跡(南陽市) 木の下館跡(鶴岡市) 左沢楯山城跡(大江町) 高楯城跡(山辺町) 丸岡城跡(鶴岡市)	執行 採用 が 状間 が が が が は が が は が は は が は は は は は は は は は は は は は	(遊佐町) (鶴岡市) (東根市) (東根市) (南陽市) (鶴岡市) (酒田市) (酒田市) (清田市) (大蔵村) (鶴岡市) (新庄市)	選幸寺 □ 高藤田 切切 安雄 中山北館 中山北館 日 上 光 下 宝川 上 光 下 完 川 上 来 下 元 平 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元	(鶴岡市) (寒河江市) (天童市) (西川町) (米沢市) (村山市) (米沢市) (米沢市) (鶴岡市) (米沢市) (寒河江市)	東禅寺城が軍備を増強する	室町に幕府をひらく(1338年) 種子島に鉄砲が伝わる(1543年) 織田信長安土城を築く(1576年) 豊臣秀吉の天下統一(1590年) 関ヶ原の戦い(1600年)	ダンテが活躍 明王朝がおこる ルネサンス全盛 マゼラン世界一周 がルオが活躍 東インド会社設立 清王朝がおこる





平成 18 年度 発掘調査遺跡一覧

4	200 T8 年度		小一見					
N	遺跡名 [0. (太字は報告遺跡)	所在地	調査期間	調査面積	調査原因·調査目的	主な時代・種別	調査主体	
1	上野遺跡(第2次)	南陽市大字上野字上野他	18.5.8 18.9.26	2,500	農地環境整備事業(上野地区)	縄文·弥生·古墳·中近世 集落跡		
2	中川原C遺跡(第4次)	新庄市十日町字中川原	18.5.11 18.7.7	1,000	野中地区ふるさと農道 緊急整備事業	縄文·中世 集落跡		
3	石畑遺跡	南陽市金山川西字石畑	18.5.15 18.8.10	2,000	主要地方道山形南陽線 改良工事	縄文·弥生 集落跡		
4	檜原遺跡 (第1次)	南陽市西落合	18.8.21 18.9.22	1,250	主要地方道米沢南陽白鷹線 改良工事	平安·中世·近世·近代 集落跡		
5	檜原遺跡(第2次)	南陽市中落合他	18.5.9 18.11.9	7,400	一般国道 113 号赤湯バイパス 改築事業	平安·中世 集落跡		
6	上大作裏遺跡	南陽市大字砂塚字大作裏	18.8.21 18.11.9	1,800	一般国道 113 号赤湯バイパス 改築事業	縄文·弥生·平安 集落跡		
7	天王遺跡	南陽市大字漆山字天王	18.5.10 18.11.17	6,500	一般国道 113 号赤湯バイパス 改築事業	奈良·平安時代·中世 集落跡		
8	百刈田遺跡	南陽市大字島貫字百刈田	18.11.20 19.1.26	700	一般国道 113 号赤湯バイパス 改築事業	縄文~中世 集落跡		
9	中山城跡(第2次)	上山市中山字上郭弐	18.4.24 18.11.10	8,841	一般国道 13 号上山バイパス 改築事業	縄文·平安·中世·近世 城館跡·散布地	財団法人 山形県埋蔵文化財	
10	加藤屋敷遺跡	南陽市川樋字加藤屋敷	18.5.17 18.11.24	4,400	一般国道 13 号上山バイパス 改築事業	縄文·古墳·平安·中世 集落跡	センター	
11	下叶水遺跡	小国町大字叶水字下叶水	18.5.8 18.11.22	5,900	横川ダム建設事業	縄文 集落跡		
12	稲荷山館跡(第2次)	米沢市万世町梓山字稲荷山	18.7.18 18.8.4	200	東北中央自動車道建設 (福島県境〜米沢間)	中世 城館跡		
13	山ノ下遺跡	米沢市万世町桑山字山ノ下	18.5.9 18.7.31	3,000	東北中央自動車道建設 (福島県境〜米沢間)	縄文·平安 集落跡		
14	興屋川原遺跡 (第3次)	鶴岡市大字田川字興屋川原	18.5.8 18.11.30	4,750	日本海沿岸東北自動車道 (温海~鶴岡間)	古墳·平安 集跡跡		
15	行司免遺跡(第3次)	鶴岡市大字水沢字行司免	18.4.17 18.11.30	2,100	日本海沿岸東北自動車道 (温海~鶴岡間)	奈良·平安 墓·祭祀跡		
16	矢馳 A 遺跡(第 3 次)	鶴岡市大字矢馳字上矢馳	18.4.17 18.11.30	13,000	日本海沿岸東北自動車道 (温海~鶴岡間)	古墳·奈良·平安 集落跡		
17	木の下館跡(第3次)	鶴岡市大字水沢字水京他	18.4.17 18.7.14	750	日本海沿岸東北自動車道 (温海~鶴岡間)	中世·近世 城館跡		
18	玉作1遺跡(第2次)	鶴岡市大字中清水字玉作	18.7.3 18.8.31	3,000	日本海沿岸東北自動車道 (温海~鶴岡間)	弥生·古墳·平安 集落跡		
19	岩崎遺跡	鶴岡市大字下清水字岩崎	18.5.8 18.9.22	5,000	日本海沿岸東北自動車道 (温海~鶴岡間)	古墳·奈良·平安 集落跡·官衙関連施設		
20	南田遺跡	鶴岡市大字清水新田字南田	18.9.19 18.11.30	3,400	日本海沿岸東北自動車道 (温海~鶴岡間)	古墳·奈良·平安 集落跡		
21	石橋遺跡	天童市貫津	18.9.11 18.9.25	570	開発対応	平安 集落跡	_山形県教育委員会	
22	空沢遺跡	長井市大字寺泉字空沢	18.11.15 18.11.24	150	開発対応	縄文 集落跡	四元小3人日 交景 五	
23	大在家遺跡	高畠町大字高畠	18.4.10 18.7.7	500	開発対応	奈良·平安·近世 集落跡	高畠町教育委員会	
24	花沢A遺跡	米沢市駅前3	18.5.31 18.7.31	416	開発対応	縄文 集落跡		
25	窪田元屋敷遺跡	米沢市窪田町	18.8.7 18.8.15	98	開発対応	古墳·中世 集落跡·城館跡	小小川秋月安貝云	
26	高瀬山遺跡	寒河江市大字寒河江	18.6.26 18.7.31	400	開発対応	古墳·奈良·平安 古墳·集落跡	寒河江市教育委員会	
27	高楯城跡	山辺町大字山辺字芦沢	18.9.25 18.11.20	2,208	開発対応	中世 城館跡	山辺町教育委員会	
28	小山崎遺跡	遊佐町吹浦字七曲堰東他	18.6.28 18.9.14	268	学術調査 (重要遺跡確認調査)	縄文(早期~晩期) 低湿地遺跡	遊佐町教育委員会	
29	高安窯跡	高畠町大字高安	18.8.1 18.8.31	27	学術調査	飛鳥·平安 窯跡	東北芸術工科大学	
30	左沢楯山城跡	大江町大字左沢字楯山	18.11.6 18.11.22	100	学術調査	中世 城館跡	大江町教育委員会	
31	須辺野 A 遺跡	庄内町肝煎字中沢	18.9.12 18.9.19	20	学術調査	縄文·平安·中世 遺物包蔵地	國學院大學	
32	真木遺跡	朝日町大字松程	18.10.1 18.10.31	1,000	学術調査	旧石器 散布地	日本考古学協会会員	
33	嶋遺跡	山形市嶋	18.7.18 18.10.23	600	保存目的の確認調査	古墳 集落跡	山形市教育委員会	
34	丸岡城跡	鶴岡市丸岡字町の内	18.7.14 19.3.31	250	保存目的の確認調査	中世·近世 城館跡	鶴岡市教育委員会	

中山城跡 第2次

県遺跡番号 平成7年度新規登録

所在地 上山市中山字上郭弐

現地調査 18年4月24日~11月10日

調査面積 8,841 m²

調査原因 一般国道 13 号上山バイパス

改築事業

種別 城館跡・散布地

時代 縄文・平安時代・中世・近世

戦国時代に築城されたとされる中山城は、上山市の南西端、上山盆地と米沢盆地の間にある山間の細長い平地に位置しており、標高343.9 mの天守山に築かれた山城です。伊達氏、蒲生氏の支配を経て、1598年に上杉氏の領地になりました。石積みの物見台のある本曲輪、二の曲輪、三の曲輪が良好な状態で残っています。南北には天然の渓谷、東側には標高282.5 mの前森山と称する小高い山があり、天守山と前森山の間の急傾斜な狭い箇所に、上杉氏家臣24家の武家屋敷跡(家中屋敷)と段差のある曲輪跡があります。

今年度は、家中屋敷北側を調査した昨年度に続く2次調査で、草刈家南側、尻高家、小中丸家、上大石家、斎藤家と曲輪跡を中心に調査を行いました。また、県文化財保護室の試掘で縄文土器が出土した南側の楡沢沿岸が、今年度調査範囲に追加されました。

1次2次両調査区内には、上杉家家臣24家のうち15家が置かれています。武家屋敷跡と曲輪跡に関する遺構は、武家屋敷跡の石積み、掘立柱建物跡、礎石建物跡、土坑、井戸跡、道路跡、溝跡、埋設桶遺構、柱穴跡、墓跡があります。縄文時代の遺構としては、石組みや縦長の土坑、ピット群、落ち込み状の遺構が確認されています。また、平安時代の石で囲った屋外炉が検出されています。



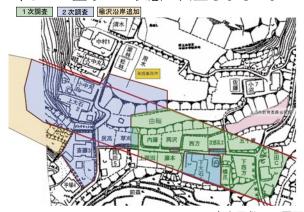
武家屋敷跡と曲輪跡からの出土遺物は、中 近世から現代に生産されたとみられる陶磁 器、同時期の木製品、金属製品、石製品が多 量に出土しています。一部中世末にさかの ぼる中国製磁器や瀬戸美濃の陶器も出土し ています。中国製品は、16世紀の景徳鎮窯、 龍 泉窯の磁器です。珍しいものでは、草刈 家から出土した唐津皿屋窯の四角釉はぎの皿 (1580~1590) があります。また、伊達氏と 深いかかわりのある内耳鍋も出土しました。 しかし、大多数が碗、皿、鉢、擂鉢、甕、仏 飯器、水滴、火入、香炉、猪口、戸車など の18世紀から19世紀に生産された陶磁器類 で、肥前・肥前系のものと、近隣の東北地方 の窯で製造されたとみられる在地系の製品で す。その他には、石臼、碾臼、石版、硯、砥 石、古銭、包丁、キセル、簪、はさみ、角釘、 小柄、灰均、鉄砲玉、漆器、曲物、箸、ヘラ、 杭、捏鉢、桶、つるべ桶、板、柱根、柱、瓦 などが出土しました。特に、1次調査で橋爪 家跡から出土した上顎用の木製漆塗り義歯が 注目されます。

1次調査で出土した磁器に入った朱色物質、磁器の底部に付着した朱色の皮膜物質、磁器の底部にたまった塊、捻った朱色物質は、理化学分析の結果、朱色物質は漆顔料のべ

ンガラ(赤鉄鉱)、皮膜物質はベンガラを混ぜ た赤漆であり、底部にたまった塊は樹脂(漆) と考えられ、捻った物質は格子状に編まれた 布にベンガラを混ぜた赤漆が染み込んでいる ことがわかりました。これは漆を塗る前に濾 すために使用した布のようです。また陶磁器 の底部のくぼみを漆塗りパレットとして使用 していたと聞きますので、家中屋敷で漆塗り が行われていたと伝えられていることを裏付 けます。

縄文土器は、前期初めから晩期前半までの 様々な時期のものが小さな破片で出土してい ますが、その中でも多く出土しているのは前 期初頭と前期後半の土器です。注目される土 器は、縄文時代前期後半の土器(大木5式: 約6.000年前)で、高畠町にある押出遺跡(大 木4式)の次に来る時期です。この時期の土 器は、山形県内ではあまり出土していません。 石器は、石鏃、石錐、石棒のほかに石器を作 る時にできるフレイクが出土しています。

平安時代の遺物は、屋外炉の焼土から、熱 を受けた土師器や、炉のすぐ近くから須恵器 の坏が2つ重なった状態で出土しました。



家中屋敷 配置図



唐津皿屋窯



内耳鍋



中山城跡調査区全



斎藤家跡



下大石家石積み



曲輪跡の調査







縄文時代前期前半の土器



義歯





屋外炉と土師器

行司免遺跡 第3次

県遺跡番号 平成16年度登録

所在地 鶴岡市大字水沢字行司免

現地調査 18年4月17日~11月30日

調査面積 2,100 m²

調查原因 日本海沿岸東北自動車道建設

(温海~鶴岡間)

種別 墓・祭祀跡

時代 奈良・平安時代

行司免遺跡は JR 水沢駅から南東に約 1 km のところにあり、大山川左岸の沖積台地上に立地し、標高は 16 ~ 17m を測ります。

昨年と今年の発掘調査の大きな成果として、木棺墓が複数見つかり、平安時代の墓域を確認できたことです。木棺墓は南北方向と北西方向を向いており、火葬に関わる施設は南北方向を向いていました。火葬に関わる施設はおびただしい炭の層があり、その炭の層の中に骨片が混じっていました。炭の層を掘り下げたところ、角材と木椀、櫛、棒状の木製品が出土しました。

また炭化物が集中する地点が何箇所か見つかり、中には炭化米・土器を含むものや、藁が燃えて炭になったようなものがありましたが、どのような性格なのかは不明です。

行司免遺跡からは土師器・須恵器・赤焼土器などの土器が最も多く出土し、杭や板材などの木製品のほかに、鉄製品や帯金具などの金属製品が出土しました。注目すべき遺物として、底の部分に「穴太(あのう)」と墨で書かれた土器が出土しました。

「穴太」は古代近江の国(現在の滋賀県) の地名にも見られます。また秋田城や払田柵 から出土した漆紙文書や木簡には人名として 見られます。特に秋田城第2号漆紙文書には、 戸主穴太部道石ほか12名に出挙が貸し付け



られたという内容の記録が見られ、古代、出 羽国(現在の山形県・秋田県)の政治の一端 をうかがうことができます。行司免遺跡から 出土した「穴太」と墨書された文字が、地名 をあらわすのか人名をあらわすのかはまだ分 かりませんが、古代の記録と考古資料が結び ついた貴重な例といえます。

昨年と今年の調査から、わかったことをま とめると次のようになります。

- ①秋田城の漆紙文書に記された人名と同じ 墨書土器「穴太」が見つかったことは。古代 の庄内地方の歴史を解明する上で一つの手が かりと考えられます。
- ②木棺墓や火葬施設が見つかったことで、 当時の行司免遺跡の周辺が墓域の一部であっ たことが確認されました。まだ、あまり良く わかっていない平安時代の墓制について、こ れからの調査で重要な手がかりが得られるこ とが期待されます。
- ③役人が着用した帯金具の一部である「鉸真」や「富壽神寶」が出土したことから、付近に役所の跡か役人の屋敷の存在が考えられます。また、木棺墓や火葬施設とのかかわりも考えられるかもしれません。





木棺墓の検出状況





「鉸具(かこ)」



「穴太」と墨書された土器



岩崎遺跡

県遺跡番号 平成17年度登録

所在地 鶴岡市大字下清水字岩崎

現地調查 平成18年5月8日~9月22日

調査面積 5,000 m

調查原因 日本海沿岸東北自動車道建設

(温海~鶴岡間)

種別 集落跡・官衙関連施設

時代 古墳時代・奈良時代・平安時代

発掘調査により、岩崎遺跡は、古墳時代と 奈良時代、平安時代の遺跡であることが分かりました。古墳時代では集落、平安時代では 管衙に関連する遺跡であると考えられます。 奈良時代の遺物は出土していますが、明確な 遺構は見つかっていません。

遺跡は大山川右岸に立地しています。現在 は平坦な水田ですが、遺跡南方の丘陵の延長 部であることから、以前は周囲よりわずかに 高い地形であったと考えられます。

古墳時代の遺構は竪穴住居と土坑などが見つかりました。竪穴住居の北側にはカマドが設けられ、北側に排煙用の煙道も付いています。土坑からは多数の土器が出土しました。

遺物では、古墳時代前期の土師器の 小型丸底坩と甕などが出土しました。ほかに ***たま 勾玉や管玉も出土しています。

奈良時代後半(8世紀後半)の遺物では するようないできる。 えんめんけん 須恵器の高台付坏や円面硯と呼ばれる焼物で



作った円形の硯が見つかりました。円面硯の 出土は珍しく、庄内地方ではほかに6遺跡から、田川郡域では荒沢窯跡から出土したとさ れていますが、詳細は報告されていません。

平安時代の遺構は、掘立柱建物、掘立柱列、 井戸などが見つかりました。掘立柱建物の中でも調査区の中央部で見つかった2棟は、柱の配置から倉庫であると考えられます。柱穴には、柱が残っているものも多数ありました。 先を尖らせた杭状の柱などもあります。柱の直径はさまざまですが、太いものでは直径が30センチメートルを測ります。

井戸は6基見つかりました。中には幾つかの種類が見られます。井戸1は、長い板を縦に並べて井戸枠を組んでいました。板は周囲の土の圧力により内側に倒されています。井戸の中からは坏や、薬壺などが出土しました。井戸2は、井戸枠として丸太をくり抜いたものが、二段に重ねられていました。ほかに横



調査区全景(右が北)



倉庫1

に木枠を組んだもの、素掘りのものが見つか りました。

遺物では、9~10世紀の須恵器の薬壺、 赤焼き土器の坏、斎串などが出土しました。 斎串は祭祀に使われたものです。

そのほかにアメリカ式石鏃と呼ばれる弥生 時代の石器や近世及び近代の陶磁器などが出 土しています。

この遺跡では、古墳時代前期から中期には 集落が営まれました。奈良時代の遺構は確認 されませんでしたが、円面硯や高台付坏など が出土しました。希少な円面硯が出土してい ることから、周辺に官衙関連の施設があった



井戸1



倉庫2

ことが予想されます。

平安時代の遺構・遺物が、最も多く見つか りました。倉庫は現在2棟確認されており、 やはり官衙関連施設と考えられます。古代に おいて岩崎遺跡周辺は出羽郡大田郷と呼ばれ ていたという説(山形県史 第一巻)があり ます。そばを流れる大山川の水運を利用し、 大田郷から集められた税を収納・輸送する拠 点としての倉庫だったのかも知れません。

調査では遺跡の性格が分かるような文字が 書かれた資料は見つかりませんでしたが、今 回の成果は、庄内地方の歴史を解明する手が かりとなるでしょう。



井戸2

言安窯跡群

県遺跡番号 高畠町遺跡番号 A - 77

所在地 東置賜郡高畠町大字高安

現地調査 18年8月1日~8月31日

調査面積 約 27 ㎡ 調査原因 学術調査

種別 窯跡

時代 飛鳥時代・平安時代

高安窯跡群は置賜盆地東部の屋代川流域 平野の南側にあります。ここでは窯跡が3地 区で確認され、谷奥のC地区が最も古く、A 地区、B地区と平野部に近づくにつれて時期 が新しくなります。

東北芸術工科大学では、2002年度から高 畠町と協力して、本窯跡群の範囲確認調査 を行なってきました。これまでの調査ではB 地区を4次にわたり発掘し、3基の窯跡と排 水溝などの付随施設を検出しました。

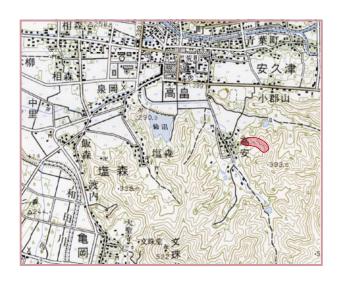
A地区は、1996年に高畠町教育委員会が 窯跡の一部を発掘調査し、須恵器と瓦を焼い ていた瓦陶兼業窯が1基存在する事が確認されました。

今年度行なわれた A 地区の調査では、以前の調査でも見つかっていた瓦陶兼業窯 (A1 号窯)と、その上に炭焼き用の窯 (A2 号窯)、A1 号窯に付随する土坑が確認できました。

A1 号窯は全長約 5.3m で、燃焼部幅 1.1m、



1号窯焼成部発掘風景



枚です。焼成部の最終操業面では、生焼けの 杯Bと蓋が多数出土しました。

A1号窯では、高畠町の調査時には返りのある杯蓋が多く出土していました。しかし今回の調査で、返りのある杯蓋は、窯で焼かれた時に失敗した製品や窯を焚くときに燃え残った炭などを捨てる、灰原で多く確認されましたが、焼成部の中からは返りの無い杯蓋しか見つかりませんでした。

A1号窯全体では返りのある杯蓋と無い杯 蓋が共存し、7世紀後葉に操業されていた、 という事が分かりました。

土坑からは、A 1 号窯で焼き損じた瓦の破片が多数出土しました。ここから出土した 瓦は接合するものが多く、一枚の瓦の大きさの分かる事の出来る資料も多数あります。大



瓦出土状況

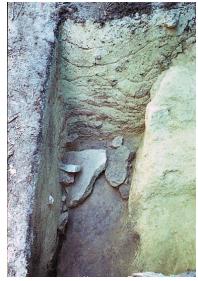
きさはおよそ長辺で40cm、短辺30cmです。 その中には無顎(段の無い)の重弧文を有す る軒平瓦なども出土しました。

A2号窯は、前庭部から焼成部の一部を検 出しました。燃焼部からは大きな板石が多数 検出されました。それらの岩石は、燃焼部の 構築材だったのではないかと考えています。 焼成部では、窯体の右側壁に、細い煙道が確 認されました。

この A2 号窯は、前庭部から出土した赤焼 土器によって9世紀後半~10世紀のもので あると考えられます。

今回の調査で、A1号窯では7世紀後葉に 操業されていた地下式直立煙道の瓦陶兼業窯 であること、瓦と共に仏器的須恵器を多く生 産していることが分かりました。A2号窯は

平安時代の炭 窯であることが 確認され、遺跡 周辺で鞴の羽口 が表採された事 などを踏まえる と、製鉄を目的 とした製炭が行 われていた可能 性があることが 分かりました。



2号窯板石検出状況



重弧文軒平瓦



1号窯 窯体(南から)



返りのある坏蓋



返りのない坏蓋

。 矢馳A遺跡 第3次

県遺跡番号 1618

所在地 鶴岡市大字矢馳字上矢馳

現地調査 18年4月17日~11月30日

調査面積 13,000 ㎡

調查原因 日本海沿岸東北自動車道建設

(温海~鶴岡間)

種別 集落跡

時代 古墳・奈良・平安時代

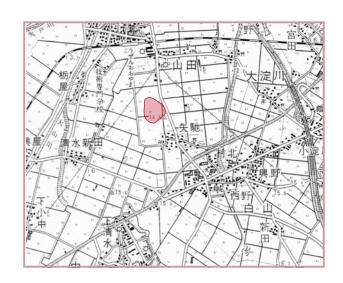
矢馳 A 遺跡は、庄内平野の南西部、鶴岡市街地の西方に開けた水田地帯、大山川と湯尻川にはさまれた沖積地にあって、遺跡範囲60,000 ㎡におよぶ広大な遺跡です。遺跡付近の標高は14.5m を測り、微高地や背後湿地に立地しています。

第1次調査は、昭和62年に実施され、古墳時代後期の大規模な集落跡の存在が確認されました。それらの調査を受け、今回の調査は、日沿道の建設に先立って第1次調査区の南側で平成17年より実施されています。昨年は複数の河川跡や古墳時代の遺物包含層の存在を把握することができ、今年度は事業地区本体部分について調査が進められました。

今次調査では、古墳~中世の遺構が検出されました。

A区では奈良~平安時代のものと思われる 竪穴住居跡や河川跡などが検出され、住居跡 からは土師器、紡錘車、底にへラ書きのある 須恵器が、河川跡からは小型の壺や墨書のあ る坏等多くの須恵器や木製品などが出土して います。

B区では、奈良~平安時代の住居跡や畝状 遺構が検出されました。また、ほぼ南北方向 に走る2条の河川跡も検出され、須恵器や木





調査区全景(北東から)

製品などが出土しています。

C区東部では柱穴跡・井戸跡等が検出され、これらの遺構を囲むような形で一辺 50 m程の方形の溝跡が検出されました。柱穴跡の一部は掘立柱建物を構成すると思われます。また井戸跡からは、井戸組みの木枠や曲物、斎串も出土しています。瀬戸等の陶磁器が出土していることから、柱穴跡・井戸跡の中には、中世の遺構も含まれると考えられます。C区中央部・西部では多くの河川跡や溝跡が検出され、高坏をはじめ、坏、鉢、甕等の古墳時代のものと思われる土師器が多数出土しました。

D区では近世から近代にかけての堰跡と護 岸用の板組みが検出され、古銭等の遺物が出 土しています。



竪穴住居跡(北から)



河川跡断面 (上) A区(西から)(下) B区(北から)



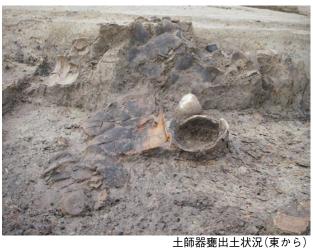
竪穴住居跡出状況(北から)



遺物包含層出土状況(南から)



井戸跡の木枠及び曲物出土状況(北から)





(左) 斎串出土状況(南から)(右) 河川跡より出土した斎串



包含層より出土した高坏



河川跡より出土した木皿

下叶水遺跡

県遺跡番号 1426

所在地 西置賜郡小国町大字叶水字下叶水

現地調査 18年5月8日~11月22日

調査面積 5,900 m²

調査原因 横川ダム建設事業

種別 集落跡 時代 縄文時代

今調査では、縄文時代後~晩期(約3,000年前)の集落跡と河川跡が確認されました。 集落跡は、調査区中央を流れる河川跡の両岸や、河川西側に弧状に広がるようです。集落跡では、建物の柱穴跡や、貯蔵穴と考えられるフラスコ型の土坑跡などが検出されました。建物は、4本柱を基調とし、大型の柱穴には柱を固定する根固め石が設置されます。また、河川の北東側では、深鉢が10基ほど集中して埋められ、当時の墓域(埋設土器群)と考えられます。

河川跡からは、上層から油脂箱で600箱以上の土器や石器がまとまって出土しました。 土器では、一般的な深鉢や鉢類の他に、急須形の注口土器や、三叉文様や赤彩された精密な皿、壺も出土しました。石器では、矢じりや石槍など狩猟の道具、木の実を調理するためのくぼみ石や磨石などが1000点以上あります。また、土偶(土製の人形)や土笛、石棒・石刀などのお祭りに使われた道具も出土します。他に漁労のための土錘(土製のおもり)なども出土し、当時の多様な生活が分かります。

今調査の大きな成果としては、①県内では 少ない当時の集落全体の構成が分かる事、② 多量の土器相から隣接する他地域(北陸地方) との関連がうかがえる事があげられます。





急須形の注口土器



弓矢につけた矢じり



お祭りに使われた土偶(土製の人形)



県遺跡番号 南陽市 M-1

所在地 南陽市金山川西字石畑

現地調査 18年5月15日~8月10日

2,000 m² 調査面積

調査原因 主要地方道山形南陽線改良工事

種別 集落跡

縄文時代・弥生時代・近世 時代

本遺跡は、南陽市北部の金山地区に所在し、 吉野川右岸の段丘に立地します。

今回の調査では、総数約300ほどの遺構が 検出され、土抗・溝跡・沢跡・ピット群・井 戸跡などがあります。

土抗と認められるものは、約20基あり、 径 50cm ~ 1 m、深さ50~60cmのものが 一般的ですが、中には深さが1mを超えるも のもありました。調査区の北側から主に検出 され、集中して掘られたようです。用途とし ては不明ですが、縄文時代中期~晩期にかけ て作られていました。

溝跡は、主に調査区の南側から検出され、 東西方向に走るものが複数ありました。いず れも浅く、遺物もわずかに出土するだけでし た。南側の調査区北西角から沢跡も見つかり、 東に進むにつれて落ち込んでいきます。中 から縄文晩期の壷や鉢の小破片が出土しまし た。

柱穴は、調査区北側に多く、径が50cmを 超えるものが点在していました。調査区の幅 が狭く、建物跡であるか不明な部分がありま すが、縄文後期~晩期にかけて建造物が作ら れていた可能性があります。

遺物は60箱出土しており、縄文時代の土 器や石器が大半です。土器は後期を主体に縄 文中期から弥生時代中期まで認められます。



石器は、石鏃や石匙などが見られます。石 材は、頁岩を用いたものの他に鉄石英のもの もあります。

この度の調査では、調査区が河岸段丘の川 縁にあるため、生活の拠点となる居住域から 外れているようです。生活の拠点は、調査区 の西側の高位段丘にあったのではないかと考 えられます。



調査区全景



柱穴断面



土坑断面



沢跡検出状況



土坑・柱穴群



縄文時代の注口土器出土状況



小山崎遺跡 第13次

県遺跡番号 2214

所在地 飽海郡遊佐町吹浦字七曲堰東他

現地調査 18年6月28日~9月14日

調査面積 268 m²

調査原因 学術調査 (重要遺跡確認調査)

種別 低湿地遺跡

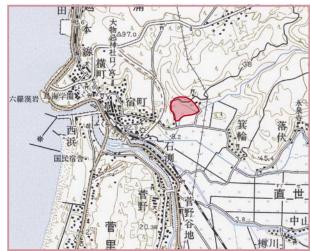
時代 縄文時代(早期~晩期)

小山崎遺跡は庄内平野の北端が鳥海山の南西麓に接するところ、月光川が注ぐ日本海の東 1.6km にあります。遺跡の南にはいま鮭が溯上する牛渡川があり、標高は丘陵上で約6m、水田はわずかに 1.7 mです。

この遺跡は1995年に県営圃場整備事業のために試掘調査が実施されて、希少な低湿地遺跡であることがわかりました。泥炭層が獣骨・魚骨・骨角器や木製品・木の実など有機質の遺物を腐食せずに保存していました。深いほどに古い時期の土器や石器が堆積しており、縄文時代の晩期前葉から早期後葉までさかのぼることが確かめられています。

調査は7次までが県教育委員会、8次から は遊佐町教育委員会が主体となって継続して います。最近の調査の目的は、低湿地に幾多 の遺物を残して中心となった、後期縄文人の 集落の位置を探すことでした。

昨年の12次では低湿地を調査していますが、今年の13次は丘陵面北半と山麓斜面に96ヵ所の試掘坑を設けて分布を調べ、遺構や遺物の保存状況から4ヵ所の調査区を発掘しています。その結果、岩石が露出する丘陵上にも晩期の縄文人が居住していたこと、そして驚いたことに後期などの縄文人は、山麓の傾斜面にまるで段々畑のように家屋を構築していた可能性が強まりました。





航空写真 ◎が小山崎遺跡



第Ⅲ調査区

(調査区の上部傾斜面一帯の森林の中に小山崎遺跡で生活していた縄文時代後期の人々の集落が広がっていることが確認されました。)



小山崎遺跡遠景(奥は鳥海山・手前は遺跡内を流れる牛渡川の清流)



5層

低湿地の層序(5層が後期泥炭)

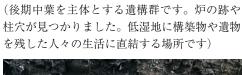
銛先形骨角器(獣骨製)



緩斜地の試掘坑(遺物出土状況)



後期初頭の深鉢形土器 (多数の獣骨・魚骨と共に 12 次調査 で出土しました)



第Ⅲ調査区



集石遺構(石核が多数発見)



45

深鉢形土器 (第Ⅲ区の大 石の落込んだ 土坑内より出 土)

土製の耳飾 (両面に模様 が施されてい ます)

上野遺跡 第2次

県遺跡番号 平成16年度登録

所在地 南陽市大字上野字上野ほか

現地調査 $18 \mp 5 \ \beta \ 8 \ \beta \sim 6 \ \beta \ 19 \ \beta$

18年9月4日~9月26日

調査面積 2,500 m²

調査原因 農地環境整備事業

種別 集落跡

時代 縄文・弥生・古墳時代・中近世

上野遺跡(第二次)は、南陽市の上野集落から南西に張出す段丘上に位置します。調査は昨年度の調査区の北東端から東に延びる果樹園(7区)と、南端から南東に約50m離れた水田(8・9区)の2箇所で行いました。

7区からは約150基の柱穴が検出され、ほぼ等間隔で直列に並ぶ中近世の掘立柱建物跡と考えられる建物跡4棟を検出しました。また、調査区東端の砂層部では、柱材が辛うじて残された柱穴を6基ほど検出しました。8・9区では、縄文時代の河跡・土坑、弥生時代の溝跡、古墳時代の杭跡、中世の土坑等が確認されました。

出土遺物の点数 はわずかですが、 中世の在地産と推 定される須恵器(坏蓋・鉢等)やそ の他の陶器および



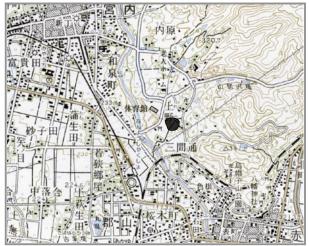
須恵器・青磁

中国産の青磁碗、近世の磁器染付等が出土しています。昨年の調査区に隣接する7区の

西側においては縄 文土器片と石器が、 一箇所に集中して 出土しています。



縄文土器片





7 区掘立柱建物跡完掘状況



7区 SP616 柱材検出状況



8・9 区完掘状況

中川原C遺跡第4次

県遺跡番号 平成8年度登録

所在地 新庄市十日町字中川原

現地調査 18年5月11日~7月7日

調査面積 1.000 ㎡

調査原因 野中地区ふるさと農道

緊急整備事業

種別 集落跡

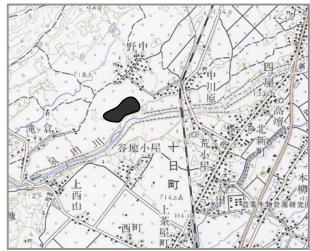
時代 縄文時代・中世

中川原C遺跡は、泉田川の形成した段丘上 に位置しています。

今回の第4次調査では土壙・溝跡・河川跡・ピット群などが見つかりました。土壙などは調査区中央部の地形的に高まり部分に密集して見つかりました。土壙は6基確認しました。南東側端の斜面部には谷状の遺物包含層があり、北西側端には河川跡が見つかっています。特に東端の谷部分からは多数のピットと縄文時代の遺物がまとまって見つかりました。

遺物は、縄文時代の土器や石器・石製品・中世以降の陶磁器・古銭・碁石などが見つかりました。土器は縄文時代中期と後期初頭の頃(約4,000年前)の土器と考えられます。石器は石鏃・石匙・箆状石器・石錐などがあり、特に漁撈に関連すると思われる「石錘」が40個以上出土していることが特徴です。また、「水晶」が出土しました。ほぼ完全な形のため信仰的なものか装飾品等として使用されていたと考えられます。

これまでの調査から、中川原C遺跡の西南部には縄文時代中期の集落が広がり、今回調査した東南区域には縄文時代後期の集落が広がることわかってきました。また、東には中世(鎌倉時代)の建物跡があることを考えると縄文時代と中世の大規模な遺跡であることがわかってきました。





遺跡全景 東から



遺構調査状況 南から



包含層下の遺構検出状況

檜原遺跡 第1次

県遺跡番号 平成8年度登録 南陽市西落合 所在地

現地調査 18年8月21日~9月22日

調査面積 1,250 m²

主要地方道米沢南陽白鷹線 調査原因

改良工事

種別 集落跡

時代 平安・中世・近世・近代

本遺跡は、南陽市南部、沖郷地区に位置し、 上無川西岸の自然堤防上に立地しています。

今回の調査で見つかった遺構は、掘立柱建 物跡・土坑・溝跡・柱穴などです。概ね中世 ~近代の時期のものです。

調査区の南側では、東西に走る溝跡以南に 柱穴群が確認され、複数の建物跡が検出され ました。上記の溝跡は、断面形がV字形で、 薬研堀を思わせます。また、調査区を南北に 走り、北側でL字に屈曲する溝跡も検出され ています。遺構の底面から中世陶器が出土し ました。幅の広い溝跡も検出され、近世初頭 の陶磁器も出土しました。溝跡を壊している 近代の土坑が見つかっています。

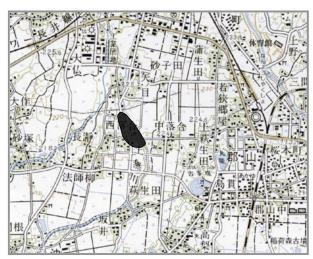
調査区の北側では、幅1mを超す土坑や多 数の小さな柱穴が検出されました。柱穴群は、 調査区の西側に偏って見つかり、建物跡は調 査区の周辺に広がるものと考えられます。



南側の建物群(北から)



北側の土坑断面(南から)





遺跡遠景(南上空から)



L字に屈曲する溝跡(北から)



中世陶器



近代の遺物 (南から)

檜原遺跡 第2次

県遺跡番号 平成8年度登録 所在地 南陽市中落合ほか

現地調査 18年5月9日~11月2日

調查面積 7.400 m²

調査原因 一般国道 113 号

赤湯バイパス改築事業

種別 集落跡

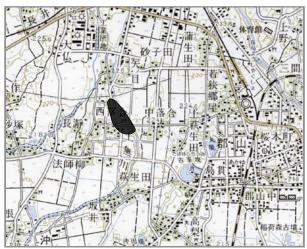
時代 平安時代・中世

檜原遺跡は、吉野川と織機川に形成された せんじょうち せんもうぶ かみなしがわ 扇状地の扇央部、上無川の自然堤防上の微高 地に立地し、標高は約222 mを測ります。

A区では中世を中心とする遺構が確認され ました。掘立柱建物跡4棟は密集していて建 て替えが行われたようです。中には、両面に 庇を持つものもありました。付属する施設と して、木製の枠を持つ井戸跡1基のほか、6 基の井戸跡と塀跡を確認しました。幅およそ 2m、深さ80cmの区画溝も見つかりました。

B区の遺構は平安時代のものです。3~4 m四方程の竪穴状遺構が3基、ほかに溝跡・ 河川跡などが確認されました。ここでは、床 や壁が真っ赤に焼けた19基の遺構が見つか っています。多くは方形で、およそ9m×2 mの大きさのものもありました。出土遺物が ほとんどないこともありその性格については 調査中ですが、土師器焼成や製鉄、鍛冶など の生産にかかわる遺構、あるいは火を使った 祭祀の場であった可能性があります。

河川跡からは土師器・須恵器が多数出土し、 そのほとんどは坏や甕です。ほかに中世陶器・ 古銭・近世陶磁器、縄文土器や石鏃も出土し ました。柱穴からは礎板や礎石も見つかって います。縄文土器や石器の出土は、近くに縄 文時代の遺跡があることを教えてくれます。





調査風景





焼土遺構

◆ 上大作裏遺跡

県遺跡番号 平成17年度登録

所在地 南陽市大字砂塚字大作前ほか 現地調査 18年8月21日~11月9日

現地調宜 10 平 0 月 21 日 ~ 11 月 9

調査面積 1,800 ㎡

調査原因 一般国道 113 号

赤湯バイパス改築事業

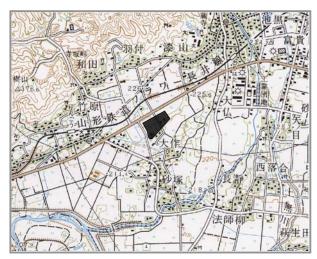
種別 集落跡

時代 縄文・弥生・平安時代

南陽市街地から西方約4.5kmに位置し、縄文・弥生・平安時代の三時期の集落跡と推測される遺跡です。今回の調査では、河岸段丘の端部にあたる遺跡範囲の東端域を対象としました。調査の進行に伴って、東側および南側の段丘縁辺部に遺物を多く含む堆積層の存在が確認されました。

見つかった遺構には、縄文時代の陥穴、縄 文または弥生時代の土坑やピット(柱穴)、 平安時代の土坑や畝状遺構などがあります。 このうち、出土遺物などから掘られた時代が 明らかなものは一部に限られます。調査区内 に住居跡が見当たらないことから、当地が各 時代のムラの一部であったことは推測できま すが、居住域は北側の微高地にある可能性が 考えられます。1基見つかった縄文時代の陥 穴や、平安時代の畝状遺構の存在から、当地 は集落域の外縁として利用され、狩猟場や畑 地であったものと思われます。

遺物はその大半が縁辺部の堆積層内から出土しました。弥生土器が最も多く、2本一対の平行沈線を引いた文様の特徴から、約2,000年前の弥生時代中期後半のものと推測されます。ほかに約5,000年前頃の縄文土器と石器、平安時代の土師器や須恵器、それに時期不明ですが農耕具の鍬と判断される木製品が1点出土しています。





調査区全景



南辺部堆積層の掘下げ



弥生土器出土状況

天王遺跡

県遺跡番号 平成8年度登録

所在地 南陽市大字漆山字天王

現地調査 18年5月10日~11月17日

調査面積 6,500 m²

調査原因 一般国道 113 号

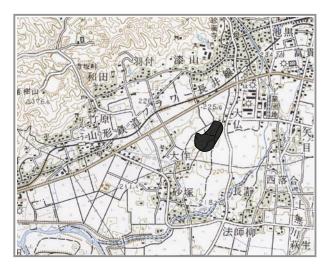
赤湯バイパス改築事業

種別 集落跡

時代 奈良・平安時代・中世

遺跡は南陽市宮内の熊野大社から南西約4kmに位置しています。調査区の西側で館の堀が見つかりました。堀は幅約8m、深さ1mの規模で人為的に埋められていました。「テンノウサマ」を屋敷神とする大規模な方形館の可能性があります。堀の東側には柱穴や井戸が数多く見つかりました。館の前面に集落があったと考えられます。調査区の南西部から細い溝が並んだ畝状遺構がまとまって見つかりました。畑の跡と考えられます。これらのことから、大規模な堀で囲まれた館の前面に、居住域と生産域が展開する景観が復元できます。

遺物の多くは堀と溝から出土しました。かわらけ、珠洲、瓷器系陶器、青磁、古瀬戸などの中世陶器、木簡や曲物などの木製品、砥石や茶臼などの石製品が出土しています。13世紀から14世紀頃の中世前半のものが中心です。また、堀の最上部から板碑が出土しました。置賜地方に多い家型板碑で、遺跡の近くに立つ文和三年阿弥陀板碑とあわせ、板碑を立てた人々と今回見つかった館や集落の住人との関連がうかがえます。今回見つかった遺構や遺物は周辺に残る石造物や地名などとあわせて、地域の歴史を考える上で貴重な資料となります。





調査区全景



堀の跗



調査区中央の2条の溝跡

◆ 加藤屋敷遺跡

県遺跡番号 平成17年度登録

所在地 南陽市川樋字加藤屋敷

現地調査 18年5月17日~11月24日

調査面積 4,400 ㎡

調査原因 一般国道 13 号上山バイパス

改築事業

種別 集落跡

時代 縄文・古墳・平安時代・中世

加藤屋敷遺跡は、鷹戸山と岩部山に囲まれた緩やかな傾斜地に位置しています。

今年度は、調査区をA区~E区に分けて調査しました。C区とD区では6棟の竪穴住居跡が見つかり、すべてに据付のカマドの跡が確認されました。カマドは白い粘土で作られていました。また、どの住居跡からも、木炭や焼け土が多く見つかっており火事になった可能性があります。その他の遺構として、柱根・井戸跡・溝跡・方形周溝状遺構・杭列・川跡なども見つかりました。

遺物は、縄文時代・古墳時代・平安時代・中世・近世の色々なものが出土しました。時代の古い順に、縄文時代後期の土器や石器・石斧、縄文時代の終わりごろの小型の壷形土器、古墳時代の勾玉が見つかりました。住居跡が埋まった土の中からは、平安時代の土師器・須恵器の甕・土鍋・坏・蓋などの土器が見つかりました。遺構からではありませんが、平安時代の木簡と見られる木製品も発見されました。また、川跡からは須恵器や土師器、木製品に混じってクルミやトチの実が多数出土しました。この他にも、中世の古銭・陶磁器や近世陶磁器が見つかりました。

今回の調査区では、比較的まばらな集落の 様子がわかりましたが、この地区は中心部分



とは言えないようです。もう少し上の平坦な場所に遺跡の中心があると考えられます。 そのあたりは縄文時代晩期の岩谷堂遺跡といわれています。加藤屋敷遺跡・岩谷堂遺跡の一帯は、縄文時代から古墳時代・中世・近世にわたる複合遺跡となる可能性があります。



B区の方形周溝遺構



E区川跡遺物の出土状況

稲荷山館跡 第2次

県遺跡番号 米沢市遺跡地図A - 393

所在地 米沢市万世町梓山字稲荷山 現地調査 18年7月18日~8月4日

調査面積 200 ㎡

調査原因 東北中央自動車道

(福島県境~米沢) 建設

種別 城館跡

時代 中世

本遺跡は米沢市街地から南東約6kmに位置する中世の城館跡です。今回は、当時の構築物として現存する土塁と堀跡を主体に調査を行いました。

館跡は山麓の自然地形を利用し、尾根に面した空間を土塁と堀でL字状に区画して構築されたと考えられます。土塁は何層にも土を積み上げて構築され、堀は土塁と平行して外側に築かれていました。柱穴は内部の建物跡を構築するものの一部と考えられますが、調査区域が限定されていたことからその内容については不明です。

遺物には10数点の土器片があり、置賜地方の中世の遺跡によく見られる内耳土堝片が見つかっています。

稲荷山館跡は南西側にそびえる早坂山を背景として、山麓に築かれた「平城」

に分類されます。本館跡は伝承によれば長井氏の家臣、熊坂利衛門の築城とされており、伊達氏の置賜侵入の際に最後まで戦ったが敗れ、廃城になったと伝えられています。梓山付近には10余りの館跡や山城が点在していることから、この地域が古来より交通の要所であったことがうかがわれます。





調査区全景





土塁と堀跡

内耳土堝

◆ 山ノ下遺跡

県遺跡番号 平成17年度登録

所在地 米沢市万世町桑山字山ノ下 現地調査 18年5月9日~7月31日

調査面積 3.000 ㎡

調香原因 東北中央自動車道

(福島県境~米沢) 建設

種別 集落跡

時代 縄文時代・平安時代

本遺跡は米沢市街地から南東方約5kmに位置し、縄文時代からの集落跡と推測される遺跡です。その範囲は現況の地形から推察して、東西約60m・南東約100mと考えられます。

今回の調査では、縄文時代の土坑・陥穴・ 埋設土器と平安時代から近世までの溝跡や柱 穴が見つかりました。埋設土器が単独に3点 見つかっていますが、付近に住居跡は見当た りませんでした。居住域は北側の平坦部にあ り、当地が縄文時代のムラの一部であったと 推測されます。3基あった陥穴は獣道に配し たことが推測され、調査区南半の山麓側で検 出されました。調査区西端にある谷状のくぼ 地からは、平安時代の土器がまとまって出土 しました。



縄文時代の埋設土器





調査区全景

出土遺物は破片が多く、その形が分かるものは多くありません。縄文土器は文様が分かるものを観察したところ、縄文時代前期から後期頃の土器と考えられます。平安時代の土器は貯蔵用の甕や食器である坏などが見つかっています。



縄文時代の土器

平安時代の土器

◆ 與屋川原遺跡 第3次

県遺跡番号 平成16年度登録

所在地 鶴岡市大字田川字興屋川原 現地調査 18 年 5 月 8 日~ 11 月 30 日

調査面積 4,750 ㎡

調查原因 日本海沿岸東北自動車道建設

(温海~鶴岡間)

種別 集落跡

時代 古墳時代・平安時代

興屋川原遺跡は庄内平野南西部、鶴岡市街地中心部から南西約 10km に所在し、大山川の右岸に位置しています。地形は大山川によって形成された沖積地で、現在の地目は水田です。大山川を挟んで左岸には行司免遺跡があります。

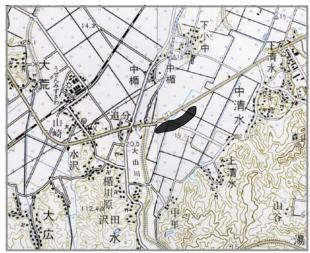
興屋川原遺跡は調査範囲が11,000 ㎡に及ぶ広大な遺跡で、昨年度から本調査を実施し、 古墳時代と平安時代の二つの時代が有ること が判明しました。

今年度、古墳時代の遺構は土師器が投棄された落ち込みが検出されています。そこからは全長 18cm 余の刀子が出土しました。

平安時代の主な遺構は掘立柱建物群が 検出されました。南北に並ぶ2間×4間の SB1002、2間×6間のSB1001掘立柱建物跡



SB1001 掘立柱建物跡





古墳時代土坑より出土の刀子

と東西に並ぶやや小振りの2間×3間規模のSB1003、1004掘立柱建物跡がL字形に配置されていました。比較的大規模な規模の建物が整然と並んで配置されており、一般集落とは考えにくく、何らかの公的性格を持つ建物なのかもしれません。



SB1003、1004 掘立柱建物跡

木の下館跡 第3次

県遺跡番号 平成8年度登録

所在地 鶴岡市大字水沢字水京他 現地調査 18年4月17日~7月14日

調査面積 750 m²

日本海沿岸東北自動車道 調査原因

(温海~鶴岡間)

城館跡 種別

時代 旧石器·縄文時代·奈良平安·

中世・近世

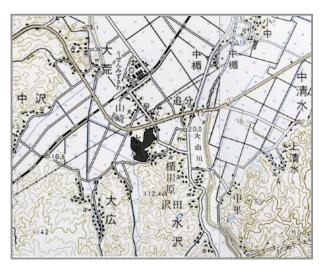
木の下館跡は、鶴岡市街地の南西部、IR 羽越本線水沢駅の南約1kmに位置し、丘陵 の頂部にあります。

今回の調査で見つかった遺構は、曲輪跡・ 竪穴住居跡・炭窯跡・柱穴・溝跡などです。

曲輪跡は、断面で7段を確認でき、旧地形 である山の形を利用し、斜面を削って構築し たことが判りました。竪穴住居跡は、曲輪の 2段目の平坦な場所にあり、長さ4m・幅2 m、6本の柱穴を伴っています。曲輪の斜面 中ほどからは、大きさ2m前後の円形の炭窯 跡が3基検出されました。上層からは多量の 炭くずが、床面からは真っ赤に焼けた土が確 認できました。

遺物は、旧石器時代の石器片や須恵器片・ 中近世陶磁器片などが出土しました。

今回調査した曲輪跡は、本丸への通り道に あたり、防御する上で重要な役割を果たして いたと考えられます。炭窯の時期は不明です が、付近にある昨年調査された万治ヶ沢遺跡 からも検出されており、形態が似ています。 また、竪穴住居跡からは遺物の出土が無く、 時期は不明ですが、作業小屋のような施設と して使っていたと考えられます。





曲輪跡(南から)



竪穴住居跡(北から)



炭窯跡(北から)

★ 玉作1遺跡第2次

県遺跡番号 平成16年度登録

所在地 鶴岡市大字中清水字玉作

現地調査 18年7月3日~8月31日

調査面積 3,000 ㎡

調查原因 日本海沿岸東北自動車道建設

(温海~鶴岡間)

種別 集落跡

時代 弥生・古墳・平安

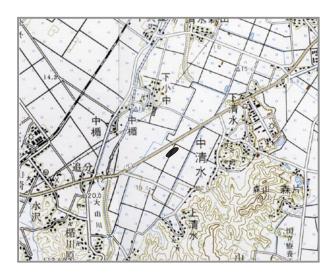
玉作1遺跡は、鶴岡市の中心市街地から南 西約9kmに所在し、興屋川原遺跡と隣接し ています。ともに大山川の自然堤防上に立地 してます。

今回の調査区は、以前のほ場整備によって がくらん 撹乱を受け、残念ですが掘立柱建物跡などの 遺構が検出されませんでした。

調査区の中央部から東側では、広範囲に亘って粘土層と砂層が交互に堆積し、流木や木片が多数発見されました。この地区には低湿地帯が広がっていたと考えられます。出土品には、古墳時代前期と後期の土師器片と、平安時代の須恵器片や赤焼土器片などがあります。

今回の調査では、遺構や遺物が検出される 層があったとみられる南西側域の一帯が、ほ 場整備で壊されていたため、往時の人々が生 活する範囲(集落)を確認することが出来ま せんでした。

しかし、中央部から東側にかけて、低湿地が大きく広がることが判りました。古墳時代の集落は水辺に近い微高地に立地していたようです。集落の中心地は調査区の南側にあったものと考えられます。





調査区全景(西から)



作業風景(北から)



遺物出土状況(南から)

◆ 南田遺跡

県遺跡番号 平成 16 年度登録

所在地 鶴岡市大字清水新田字南田 現地調査 18 年 9 月 19 日~ 11 月 30 日

調査面積 3.400 ㎡

調查原因 日本海沿岸東北自動車道建設

(温海~鶴岡間)

種別 集落跡

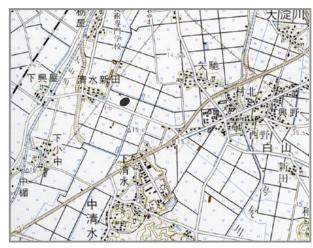
時代 古墳・奈良・平安時代

南田遺跡は古墳時代・奈良時代・平安時代 の遺跡です。井戸、土坑、溝、ピット、川跡 などが見つかりましたが、住居はありません でした。よって住居域からは、やや離れた個 所であると考えられ、遺跡の中心は調査区の 西側になると予想されます。

遺物は主に溝と川跡から出土しました。土 器は8世紀中頃から後半のものであり、庄内 平野では希少な出土例です。『続日本紀』では708年に出羽郡が設置されたとされていま すが、その中心である出羽柵の具体的な場所 は分かっていません。『山形県史第一巻』では、 その可能性地の一つとして大山川流域が挙げ



土器出土状況(川跡SG 130)



られていますが、出羽柵は733年に秋田市まで北進してしまいます。

南田遺跡から出土した土器は、庄内平野に 出羽柵が経営されていた年代に大きく近づき ましたが、それでも約四半世紀のひらきがあ

り紀ま出はの明大な出地た新示なま後っ土、奈らきる羽はのたしりませたし庄良かなと柵どかなたまるま器こ平代す果時所だい題と。













出土した8世紀後半の須恵器

企 画 展

発掘された被災遺跡

1 はじめに

人びとは自然を敬い、自然に学び、自然とともに生き、すぐれた文化を生み出してきました。その過程において幾多の自然の驚異・災害、人々の争いに遭遇してきました。2004年に起きた中越地震から2年が経ちますが、近年は地震だけでなく火山や台風・竜巻など災害の怖さを眼の当りにしているところです。災害は繰り返すと言いますが、昔から人々は様々な災害に出会い戦ってきました。

災害には大きく自然災害と人為的な災害に 分けられ、主に次のような災害があります。

◎自然災害 地震(地割れ・噴砂等)

じすべり どせきりゅう 地滑り 土石流

洪水

◎人為的災害 火災

事故

全国で発掘調査により災害の痕跡が発見されるようになり、注目を集めていますが、山形でもこれまでの遺跡の発掘調査から、過去の災害の痕跡が発見され、数々の情報を提供しています。今回の企画展では、これまで発見された被災した遺跡と出土した遺物の主なものについて紹介します。

2 発見された被災遺跡 ゆざまち しもながはし 遊佐町 下長橋遺跡

下長橋遺跡は庄内平野の北、鳥海山麓の水田地帯に位置します。下長橋遺跡の発掘調査では、検出した掘立柱建物跡の掘り方に地震によると思われる変形がみられ、柱の跡も傾





下長橋遺跡で見つかった掘立柱建物跡



地震により変形した掘立柱建物跡の柱穴

いて検出されました。また大規模な帯状の 噴砂が最大幅1m長さ15m以上にわたって 確認されました。原因となった地震は平安時 代の10世紀後半から11世紀の間に起こった とみられます。ここからは祭祀をおこなった 穴と遺物も見つかっています。全部で14を 数える穴の中には甕や坏・皿・礫がまとめて 埋められてありました。地震後の地鎮祭跡と 考えられます。天変地異にさいして神々への

埋められてありました。地震後の地鎮祭跡と 考えられます。天変地異にさいして神々への

坏、皿や小石を詰めた甕が埋められていました

祈りを奉げたものでしょうか。同様な建物の傾いた様子は酒田市生石2遺跡でも見つかっています。

きがえし とやま 第四江市 富山2遺跡

富山2遺跡は寒河江市と大江町の境目に位置し、標高170mの谷間に位置する平安時代の集落跡です。遺跡は地滑りの滑落斜面にあり、地滑りした谷間の平坦地に住居が幾たびか建て替えられているのが確かめられま



猿投窯産の水瓶

した。建て替えの間にも小さい地滑りが起こったらしく、住居跡内堆積土の観察から土砂が流れ込んだ様子が見られました。 8 棟ある住居跡は、狭い範囲に何度も建て替えられていました。特に ST38 とした住居跡は火災により焼失した住居で、遺物もまとまって出土しました。ここからは 800 年程前の猿投窯産(愛知県)の水瓶が出土し、注目されました。



地滑りした谷間に営まれた富山2遺跡

き が え し さんじょう 寒河江市 三条遺跡

三条遺跡は寒河江市高瀬山に位置する縄文 時代から近世にかけての遺跡です。ここから は噴砂の痕跡が見つかっています。噴砂とは



三条遺跡

地中の土砂と地下水が地震の振動を受けて液状になり、地割れから噴き出したものです。 三条遺跡では、この噴砂は4条確認されました。地層の観察から噴砂は、下の層から帯状



帯状に噴出した三条遺跡の噴砂

に噴き出していることがわかりました。これを平安時代の井戸が掘り込んでいることから噴砂を起こすような地震が平安時代以前に起きていたことがわかりました。地震当時の地下水の水位や地盤のもろさを知ることができました。

西川町 水沢館跡

水沢館跡は西川町水沢に位置する中世から 近世にかけての山城跡です。ここからは平場 や空堀、土塁などが見つかりました。空堀の ひとつは、調査の結果、地震によってできた 地割れを利用して造られたものであることが



地割れを利用して造られた空堀

わかりました。山城が築かれる前に地割れを 引き起こすほどの大きな地震があったようで す。また地滑りが館の西側斜面の平場を破壊 し、その後作り直している様子も見られまし た。水沢館跡の現在の地形は地震や地滑りに よって、大きく改変を受けていることがわか りました。



空堀の土層断面

てんどうし たかだまみなみ 天童市 高擶南遺跡

高擶南遺跡は天童市の高櫤、立谷川扇状地の前縁帯に営まれた古墳時代前期の集落跡です。

ここからは火災により焼失した住居跡 (ST202) が見つかりました。住居跡を徐々に掘り下げたところ、炭が床全面を覆っており、梁や垂木といった建物部材の炭化したものが見つかりました。梁材にはほぞ孔が認め



火災にあった住居跡

られ、垂木材は放射状に見つかりました。住居内には完全な形の土器などが残されていたことから、生活の用具を持ち出す暇もないほど急な出火だったのでしょう。



火災に遭い、住居内に残された土器

萩原遺跡市平 はまる が会に位墳時世の がけてのでする がけてのでする。

ここからも高擶南遺跡同様、火災により焼失 した住居跡 (ST 6 ST10) が見つかってい ます。住居跡は古墳時代前期のもので、床面

に炭化した梁や垂木といった 建築部材が放射状に広がって 見つかり、土器など火災前の 生活がそのまま残されていま した。炭化した柱材の上には 赤色化した土が覆っていたこ とから、屋根は土に覆われて いたと思われます。

3 被災遺跡から学ぶこと

山形県内では今回紹介した 遺跡の他にも過去の災害の跡 が見つかってきています。

私たちは過去の災害を知ることによって、どのようなところが危ないのか、どのくらいの頻度で災害が発生しているのか、どのくらいの被害を

受ける恐れがあるのか等など、たくさんのことを学ぶことができます。

そのためにも我々の祖先が残した遺構や 造物だけでなく自然がもたらした数々の痕跡 も注意深く観察して、そして記録に残してい く必要があります。

現在、被災の歴史を知るだけでなく、防災関係の機関では調査によってわかったことをもとに災害の周期や地形の理解を進め、今後の防災に役立てる研究や試みも行われています。自然との共生が改めて問われるなか、現代を生きる私たちにとって、遺跡との出会いを、過去の生活の様子を知るだけでなく、自然と如何にして生きてきたのか、これからどのようにして生きていくべきかを考える機会にしたいと思います。



下長橋遺跡から出土した地鎮具





財団法人山形県埋蔵文化財センタ































the forefront of archaeological excavation in yamagata

